

熊本城 復興に向けて

〈20〉国指定重要文化財建造物の復旧方法

熊本城には多くの種類の建造物がありますが、今回は熊本城内にある国指定重要文化財建造物の復旧について紹介します。

被害状況について

熊本城内には櫓11棟、櫓門1棟および長堀の計13棟の国指定重要文化財建造物が存在しますが、平成28年熊本地震により全てが被災しました。被害の内容は、倒壊2棟、一部倒壊3棟、他にも屋根・壁破損など非常に大きなものでした。

特に被害が大きかったのは、東十八間櫓と北十八間櫓でした。建造物下部の高石垣と共に倒壊したため、石垣の下方まで滑り落ち、建造物の部材は石垣の石材と混ざり合っていました。そのため、瓦は多くが割れ、木部材は折れたり押しつぶされたりして、各々の部材が元々どこにあったのか、何の部材なのか判別が付かないような状況で、地震前とはまるで違う姿になってしまいました。

多くの方から特にご心配を頂いた宇土櫓五階櫓は、屋根・壁・建具の破損が見られ、特に下層階内部の漆喰壁が広範囲にわたり剥落していましたが、何とか倒壊は免れました。しかしながら宇土櫓続櫓は平左衛門丸側に完全に倒壊してしまいました。

復旧に向けた取り組みについて

被災直後はまず、被害状況把握に取り組みましたが、建造物への対処として最初に実施したのは、部材が傷むのを少しでも食い止めるための措置でした。すでに倒壊してしまっていた東十八間櫓については、真夏のとても暑い時期に、高低差のある足場の悪い作業条件の中、多くの作業員が苦労しながら、協力して石材・木材・瓦・漆喰などが混ざり合った状態から、部材を傷めない様に丁寧にひとつずつ取り上げてくれました。重要文化財なので、取り上げた部材はそれぞれ選別し、利用できる部材は全て再利用します。それぞれの部材は丁寧に清掃し、それが柱なのか、梁なのか、土台なのか、何の部材なのか、膨大な作業量の調査を経て、風雨から守るために設置



▲木部材の清掃状況(宇土櫓続櫓)



▲清掃・調査後の木部材の格納状況(宇土櫓続櫓)

した保管庫内に整然と格納されました。

被災後約2年半が経過しましたが、その間、宇土櫓続櫓・不開門・五間櫓・北十八間櫓・長堀において東十八間櫓と同様の解体・部材回収工事の実施を終えています。これからは監物櫓・平櫓で実施していきます。また、倒壊を免れた宇土櫓五階櫓は、被害状況調査・耐震診断などを実施しており、源之進櫓・四間櫓・十四間櫓・七間櫓・田子櫓は今後実施していきます。

復旧の方針について

被災した国指定重要文化財建造物の復旧方針ですが、「地震直前の状態」にしていくことを原則として復旧を進めます。しかし、今後また災害が起きるかもしれませんので、文化財的価値の保全を前提としながら、耐震・耐風対策などの安全対策を講じていきます。そのために構造的な検討を実施しますが、構造補強が必要となった場合、具体的な方法については専門家・有識者などのご意見を踏まえながら決定していきます。これからは伝統的な技法と現代の技術を取り入れ、お互いの良いところを活かせるように検討を行いながら復旧に取り組んでいきます。